

👉 G A P の取組 (個別認証)

アグリ食品有限会社

JGAP

かいわれだいこん

＜基本情報＞ 所在地：福岡県古賀市
 構成員30名：役員5名＋社員5名＋パート20名
 〈農場概要〉
 栽培面積：かいわれだいこん 6.6a



商品パッケージ・製品ケース

交代勤務で
GAP頑張っ
ています！



GAPに取り組むメンバー

＜GAP取得のきっかけ＞

1996年～「かいわれ
大根生産衛生管理マ
ニュアル」による管理

自分達に合った
衛生管理を充実
したい。

JGAP青果物2010
(2012年5月認証取得)

＜GAP認証取得で苦労したこと＞

◆ 認証審査までの準備

・かいわれ大根生産衛生管理マニュアルを、該当するJGAPの項目にあてはめる作業に時間を要した。

◆ 管理チェック項目の増加・記録項目の増加による帳票管理、担当者の教育

◆ 管理作業手順の統一

→ 写真入り栽培管理マニュアルの作成



整理整頓された施設

＜GAP認証取得による効果や改善されたこと＞

◆ クレームへの対応

・生産工程表の作成により、異物混入等の問い合わせに対し、迅速で確実な対応が可能となり、相手先からも、より信頼を得られるようになった。

◆ 品質が一定化

・栽培管理マニュアルに沿った作業を行うことで、作業者による品質のばらつきがなくなった。

◆ 従業員の意識向上

・目につく場所にチェック項目リストを掲示することにより、自然に従業員の意識が変化し、作業場の雰囲気がよかった。



見取図・チェック表

＜今後の意向＞

◆ GLOBAL G.A.P.の取得

・取引先の親会社がGFSIのメンバーであることから、GFSIに承認されているGLOBAL G.A.P.をいずれ取得したい。

＜問い合わせ先＞

092-943-7349

👉 **GAPの取組**
(個別認証)

株式会社エフワイアグリ

GLOBALG.A.P.

ベビーリーフ

<基本情報>

所在地：福岡県豊前市荒尾464
 構成員：27名（うち役員3名）
 栽培面積：ベビーリーフ400a（ハウス82棟）、露地野菜150a
 農産物の生産、加工、販売
 【経営理念】「未来にあたらしい種をまく！」



<GAPの取得のきっかけ>

・取引先からの要請に加え、最先端の農業経営を目指して、会社創設当初からGAP認証取得を見据えることで、社員の意識教育にも繋がると考えた。



2019年4月 GLOBALG.A.P. 認証取得

◆<GAP認証取得への取組>

鰻の加工業から農業分野への参入であり、GAPの管理点は食品加工事業者としてHACCPに沿った衛生管理の経験があったため、抵抗なく取り組むことが出来た。



<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

◆従業員の意識向上

・創設当初から事業展開としてGAP認証取得を掲げたことにより、GAPをすることがスタンダードだという社員の意識付けができた。

◆安全安心の担保

・各作業工程のルールによる農作業事故の未然防止効果や衛生管理の徹底による安全安心な農産物生産への意識向上

◆コスト削減

・整理整頓を行うことで、物品管理が容易になり資材等の計画的な発注に繋がっている。



今後も継続して取り組むことで、信頼構築を図り収益向上を目指す。

👉 **G A Pの取組**
(個別認証)

福岡県農業大学校

GLOBAL G.A.P.

いちご

<基本情報>

所在地：福岡県筑紫野市大字吉木767番地

全校学生：87名（うち野菜コース イチゴ班13名）

栽培面積：いちご（あまおう）7a



【教育理念】「科学的かつ経営的視点に立って、農業技術はもとより、農業経営や流通販売等の総合的な学習を行い、学生の潜在能力を引き出す」

<G A Pの取得のきっかけ>

・将来の農業を見据えたカリキュラムの取組みにより、学生の意欲を高め、地域を牽引する人材育成を図る。

GLOBAL G.A.P.
(2019年3月認証取得)

<GAP認証取得で苦労したこと>

◆リスク評価（食品安全・環境整備等）

- ・危険場所や危険な物を排除するためのリスクの洗い出し。
- ・学生が対応策を検討し、手順書やマニュアルの作成、管理体制を構築すること。
- ・日々の作業記録作成の習慣化に時間を要した。
- ・倉庫の整備・改修が必要となった。

No.	書名
1	農場
2	いちご園設置利用ルール
3	野菜コースにおける衛生手順
4	冷蔵庫使用ルール
5	手洗いルール
6	農具洗浄の手順
7	農具・作業服リスト
8	組織図・作業名簿
9	食品接触性予防プラン
10	ドレープ・ビニール対応プラン
11	生産計画書
12	肥料使用手順書
13	堆肥利用マニュアル
14	イチゴにおける水管理プラン
15	農業使用手順書
16	農業取扱い時における事故対応手順
17	収穫記録マニュアル
18	鳥獣害対策マニュアル
19	農薬・生防除剤・手帳、記録表、トラップ見取り図
20	緊急連絡先一覧
21	被覆資材設置マニュアル（天井・内張りビニール）
22	ミジバチ管理マニュアル（作成中）
23	刈り払い機使用マニュアル（作成中）
24	気象災害対策マニュアル（台風対策、積雪、豪雨、地震）

◆学生の意識付け

- ・G A Pの取り組みへの学生のモチベーション維持。

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

◆リスク管理の徹底

- ・リスクを共有でき、**作業の効率化と安全な作業**が可能となった。
- ・圃場や施設の清掃、整理整頓の取り組みが、イチゴ班から**野菜コース全体に浸透**した。

◆学生の意識の変化

- ・学生が主体的に取り組んだことで、**自信と意欲が向上する**など、**学生の意識改革につながった**。

<今後の課題>

◆校内でG A Pの普及

- ・イチゴ以外のコースで「**県GAP**」にチャレンジ。

◆意識の継続

- ・日々の取組の中で改善点を見つけて、ルールやマニュアルを作成し、さらに**レベルアップ**を目指していく。

<問い合わせ先> 092-925-9129 <http://fuknodai.jp/>

👉 **G A Pの取組**
(個別認証)

株式会社 グッドリーフ

GLOBALG.A.P.

サラダ野菜

<基本情報>

所在地：佐賀県唐津市

【経営概要】 役員2名・従業員 11名(うち外国人技能実習生(女性)1名)

【農場概要】 栽培面積：48a (リーフレタス等サラダ野菜の周年出荷)

パートナー農場：3園 95a

〔(株)エバークリーン、(株)サンファーム、ライフグリーン〕

【経営理念】 「人の健康と地球環境に配慮したおいしい野菜の提供」



<G A Pの取得のきっかけ>

- ◆ 民間就業体験から、農業経営改善にもGAPが必要不可欠との経営判断



2007年 J G A P 取得
J G A P 認証佐賀県第1号

2014年
GLOBALG.A.P.取得

<GAP認証取得で苦労したこと>

- ◆ 作業手順のマニュアル化と従業員への指導・徹底
作業手順をマニュアル化し、全従業員へ意識付け。
パートナー農場への波及(3農場もJ G A P取得)。
- ◆ 生産システムの開発と履歴の管理
自社独自の生産システムを開発。作業責任者にはタブレット端末を付与し、データによる作業管理を徹底。



<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

◆ 従業員の意識・品質の向上

クレーム対応を作業手順書に明記するとともに、クレーム処理のシミュレーションを会社全体で年1回実施することで、**従業員の意識向上、商品の品質向上**に寄与。

◆ 受注量の増大

GAPに沿った農場運営が大手量販店Nストア等に評価され、**受注量が拡大**。

◆ 生産工程の見える化による作業効率化と適正な在庫管理

経験と勘に頼る作業管理から作業手順をマニュアル化し、責任者の配置、毎日の作業の記帳を徹底することで、**作業の効率化、適正な在庫管理**を実現。

グッドリーフ農場ルール

2011年12月16日策定
2013年11月1日改定

生物学的危害

- 1 作業前には石鹸を使い、手洗いをする。
- 2 トイレの後には手洗いをする。
- 3 手、指にケガがある時はゴム手袋を必ず着用する。
- 4 作業時は帽子、エプロンを着用する。
- 5 カゼ、伝染病、の人は作業には参加しない。
- 6 農薬、肥料を扱った後で調整作業はしない。
- 7 コンテナ、はさみは使用後洗浄、殺菌をする。
- 8 農場内のゴミは特定の場所に管理する。
- 9 作業室は作業後必ず清掃する。
- 10 植物残渣は毎日特定の場所に廃棄する。

化学的危険

- 1 農薬散布、肥料調合後はすぐに片付け、手洗い、着替えなど行う。
- 2 調整室内には農薬、肥料を保管しない。
- 3 収穫率を収穫以外の事に使用した場合は必ず洗浄する。
- 4 農産物搬送の場合は専用のコンテナを使用する。
- 5 秤、はさみ、などは他の目的に使用しない。

物理的危険

- 1 農場内では喫煙はしない。所定の場所で喫煙する。
- 2 作業時には安全靴は必ず着用する。
- 3 農場内では飲食しない。

👉 **GAPの取組**
(個別認証)

JR九州ファーム株式会社 松浦事業所

GLOBAL G.A.P.

アスパラガス・ブロッコリー

〈基本情報〉

所在地：長崎県松浦市

構成員：正社員4名、期間契約社員24名（うち外国人技能実習生研修生10名）

栽培面積：5.2ha（R元作付品目：アスパラガス3.3ha,ブロッコリー1.9ha）

【経営理念】

「地域に入り、その土地の良い物をしっかり掘り起こし、地域農業の活性化をめざす」

JR九州グループの「安心・安全」の理念を守り、グローバルスタンダードの営農



【GAPの取得のきっかけ】

◆ **JR九州ブランドの**
「安心・安全」の証明

2019年3月認証取得
GLOBAL G.A.P.

【GAP認証取得で苦労したこと】

◆ **社員・作業員への意識付け**

- ・GAPの取り組みの意味（必要性）をキチンと社員や作業員に理解させる必要がある。

⇒ **全員でGAPの基礎を勉強**

- ・各農作業の流れ中で、ルールと取り組みの意味を伝え、現場にあった内容にする必要がある。

⇒ **各農作業の手順やルールなどを現場に落とし込む**



【GAP認証取得による効果や改善されたこと】

◆ **作業員の意識の変化 ⇒ 安心・安全の担保**

- ・GAPの取り組みをキチンと理解し、自らが何をすべきか考え、意識するようになった。
- ・生産から出荷まで、食する物を生産する会社として、農作業だけではなく、自分たちが携わった農作物への安心・安全に対する意識付けとして非常に効果があった。

◆ **労働環境の整備**

- ・作業員との農作業等の安全に関するコミュニケーションがとれ、一緒にリスク評価を振り返り、見直していくことで互いの信頼関係が強くなった。



👉 G A P の取組 (個別認証)

有限会社 育葉産業

<http://www.m-mitsuba.com> 美水みつばの郷

JGAP

みつば

<基本情報>

所在地：大分県豊後大野市

社員数：38名（うちパート32名）

<農場概要>

鉄骨アルミガラス温室 7,300㎡（みつば水耕栽培）

<経営理念>

手を抜かない誠実さをモットーに皆様が食卓で美味しく・安心して召上がっていただける様、優しく、丁寧に**美水（めいすい）みつば**を育てます。

<認証品目>

JGAP

みつば



<G A P の取得のきっかけ>

無農薬や減農薬が真に安全の証なのかを疑問に思い、「**根拠ある安全**」を模索し、**G A P の必要性**を見出した。



**2006年 JGAP取得
大分県第1号！**

<GAP認証取得で苦労したこと>

◆2005年にJ G A P 初版による認証を受けようと志したが、実施例がなく参考にした協会の資料は研究用であり非現実的であったため、実現可能な仕組みづくりの明文化のところで苦労した。この経験から「**最初から完璧を目指す必要は無い**」ことを知った。まず、作業手順を書き出し、その中に含まれる無理、無駄、むら、リスク要因を見つけ、**できることから取組を実施し、改善を重ねることが大切**だと実感した。

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

- ◆ G A P を実践していくと**自然に整理整頓が出来て、機械や道具・書類の管理が的確になり不要な動作が少なくなった**。また、農場全体の管理整理も進んだ。
- ◆ **自らの農業のあり方を見直すチャンス**となり、**お客様の視点に立って商品づくり**をするようになった。

（取組の一例）



トレーサビリティ用の札



唾が飛ばないようにするマスク

👉 **GAPの取組**
(個別認証)

(株) 安心院オーガニックファーム

JGAP

ベビーリーフ・リーフ
レタス・シャンツアイ

<基本情報>

所在地：大分県宇佐市安心院町

構成員：役員及び正社員3名、パート8名、海外研修生4名

栽培面積：14.75ha（内、ハウス3.45ha）

※有機JASの認定も受けており、圃場で使用する水も地下水を汲み上げ、ベビーリーフは品持ちが良くシャキシャキ瑞々しいのが特徴。



【経営理念】

大切な人の健康を想い、安全かつ新鮮な野菜を安定供給し、豊かな食文化に貢献する

<GAP認証取得のきっかけ>

OGAPは、今後の農業において重要なものになると考え、JGAP指導員の勧めもあって、農業生産法人立ち上げ時に、**JGAP認証**も取得する計画を立てた。

JGAP認証取得 ⇒ 2012年4月



<GAP認証取得で苦労したこと>

○ 会社設立と同時にGAP認証及び有機JAS認証を取得する計画であったため、少ない人数で、やるべきこと、作成する資料が膨大となった。

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

○ 肥料・資材等の整理整頓により**作業効率が上がった**。

○ 毎朝の朝礼により**従業員の意思疎通**が深まった。

○ 危険な場所の事前確認を行い、**重大事故の未然防止**につながった。



<今後の意向>

○ 当社の栽培スペックをフルに活用して、お客様へ新鮮で安全・安心な野菜を安定的に供給していきたい。



〈問合せ先〉

TEL 0978-58-3606 FAX 0978-44-1671

<https://www.facebook.com/ajimuof>

👉 GAPの取組 (個別認証)

長 友 み か ん 農 園

GLOBALG.A.P.

かんきつ（せとか）・きゅうり

<基本情報>

所在地：宮崎県宮崎市清武町

構成員：正社員1名、パート13名（最盛期、変動有り）

栽培面積：0.85ha（内、ハウス30棟）

※せとかは赤橙色の果皮、糖度は13度～14度と甘みが強い柑橘

【経営理念】

消費者と直接向き合う、安全・安心な農産物の提供



<GAP認証取得のきっかけ>

○就農前はISOに関わる仕事を行っており、農業においてもGAPの取組は必要であると判断。

【GLOBALG.A.P.取得のきっかけ】

○将来的には輸出も視野に入れ、国際的にもメジャーなGAP取得を考えた。

GLOBALG.A.P.認証取得 ⇒ 2016年2月

<GAP認証取得（更新）で苦労したこと>

○パートへのGAPの説明

○認証（更新）に関する審査費用が高額である。

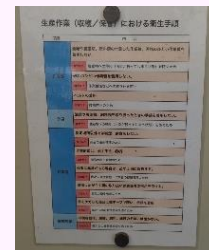
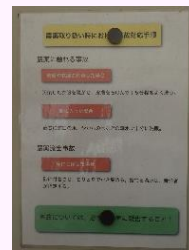
<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

○栽培管理の徹底により農薬の散布量が減り、

労働時間の短縮や**経費削減**に繋がった。

○農業資材等の整理整頓により**作業効率が上がった**。

○農作業のマニュアル化によりパート従業員の**作業効率の向上と安全な農作業**に繋がった。



<今後の意向>

○現在のみかん農園を株式会社化し、輸出にも取り組んで行きたい。



<問合せ先>

TEL 080-4485-3332

<https://www.nagatomonouen.com/>